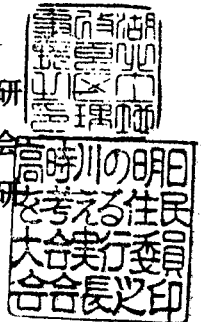


湖土改第100号

平成16年3月8日

芦田和男 殿

湖北土地改良区 理事長 酒 井 研
高時川の明日を考える住民大会実行委員会
会 長 酒 井 研



丹生ダム建設促進決起大会開催と決議文の送付について

平素、淀川水系流域委員会委員として河川整備計画策定に関する丹生ダム建設の議論等を重ねていただきお礼申し上げます。

さて、私共高時川の明日を考える住民大会実行委員会は、過日2月28日に丹生ダム建設促進決起大会を『第2回高時川の明日を考える住民大会』として、伊香郡民会館で1,050名の参加のもと開催致しました。当日は、國松滋賀県知事、三浦滋賀県議会議員、滋賀県選出の衆参国會議員、近畿地方整備局河川部長等数多くの来賓の方々にも出席いただき、席上丹生ダム建設に対する地域住民の切々とした想い、長年にわたり高時川・姉川の堤防決壊により田畑、家屋の流失を繰り返し、その都度辛酸を経験してきた私達が安全で安心出来る日々の暮らしを実現するためにも、丹生ダム建設に期する熱い考え、期待を申し述べました。

これに対し、滋賀県知事はじめ各来賓の方々には改めて地域住民の想い、考えを知り、ダム実現に努力する旨の言葉をいただいたところで御座います。

私共高時川流域に暮らす住民は、淀川水系流域委員会が組織され、その後今日迄幾多の会議、検討をされ、その結果において「今後新たなダム建設は行わない」との提言をされました。この提言に対し、高時川流域に暮らす我々地域住民としては地域の実情を無視したものであり、幾多の災害の被災経験を持つ者として甚だ憤慨にたえないのであります。

私達は、何も無駄なダムを造れといっているのではありません。過去何度となく堤防決壊により被害が発生しており、その都度私達の先人は復興に多大な苦勞と莫大な費用を投じてきました。時には何人もの尊い人命が犠牲となっています。こういったことは、高時川より遠く離れた都会に暮らす淀川水系流域委員会の委員の方には直接関係のないことかもしれません。しかし、高時川・姉川の堤防決壊により膨大な被害を受けるのは、流域住民であることをきつく再認識していただきたい。愛する家族が洪水の犠牲となった時の責任が、淀川水系流域委員会で果たせるのかという意見がかつての琵琶湖部会で一般の方より出ていました。全く同感の思いを持っています。日本気象協会の担当者によれば、近年続いています異常気象というべき地球温暖化について、この地球温暖化によるところの冬

期の温度上昇と積雪不足は今後2年、3年のみならず100年近くのかかり長期にわたり続くと言われます。また、雨量、降水量については、著しい渇水傾向とはならないものの、一時的に集中豪雨的な降り方に対する対応を考慮する必要があるといわれています。このことは、既に委員のお手元にお送りさせていただきました昨年8月の台風10号による異常出水時の状況写真においても、高時川・姉川の堤防決壊を防ぐためにも、丹生ダムの建設は不可欠のものであるということを如実に示しております。こういった治水面の外、利水においても丹生ダムが必要であるということは既に承知いただいているところであります。

私共は、地域住民の丹生ダムに対する限りなき熱い思いと、先の2月28日の決起大会における決議文をもって国土交通省に対し丹生ダム建設の必要性を重ねて陳情、要望し、ダム本体工事の早期着工、早期完了をお願いしてまいります。

淀川水系流域委員会委員である御貴殿におかれましても、当日の資料と合わせ大会決議文をお送り致しますので御覧いただき、地域住民の切なる願いである丹生ダム本体工事建設の早期着工を必死をもって懇願するものである。

決 議

平成15年1月、淀川水系流域委員会より「ダムは原則として建設しない」との提言がなされました。

淀川水系流域委員会の委員や一部の反対論者は現地にも来ず、現地の事情も知らない状況の中で生態系に悪影響を与えるなどと環境に名を借りて「ダムは原則として建設しない」と言っています。

生態系を守るためには「ダムは原則として建設しない」と言われますが、ダム以外の案で河川改修などには、いったい何十年必要なのでしょうか。

現実を全く無視した反対論者の空想的な発想を我々は断じて許すわけには参りません。

今まで流域住民は「洪水」「渇水」において、歴史の中で川に血が流されるなど他には例をみないほど悲惨な出来事を通じて自然との共生を続けて参りました。

そのことには全くふれず、「ダムは原則として建設しない」との論理により切り捨てようとしています。我々は不要なダムを造れと言うのではなく、「流域住民が安全で安心できる暮らしを守るためには丹生ダムは絶対必要です」と言っているのです。

丹生ダムは、琵琶湖の周囲や淀川流域の人々を洪水や渇水から守ることを目的に、琵琶湖総合開発事業の一環として位置づけされましたが、下流の人々のために琵琶湖から毎秒40㎥の水の供給を開始した後において、ダム建設を中止しようとしているのです。

現地を知らない反対論者にダムは必要ないと言われ、ダム建設を遅らせ貴重な人命や財産が失われた時には、いったい誰が責任をとるのでしょうか。

丹生ダムは大きく気象状況が変わっていく中で、自然との調和、高時川、琵琶湖の環境改善に大きく寄与すると共に、琵琶湖の環境を良好に保ち淀川流域の人々の安全で安心な暮らしを守るためには不可欠です。

丹生ダムの早期完成に向けて、今年の住民大会を始めとし、18,000余名の人達の署名など様々な要請活動を行い、源流から河口までの将来を共に考え一日でも早い完成を願いつつ取り組むことを再度確認し、丹生ダムが絶対必要であることを国に積極的に働きかけ、早期実現を本大会の名において強く要請するものであります。

以上決議する。

平成16年2月28日

高時川の明日を考える住民大会実行委員会
会長 酒井 研



■堤防決壊はいつ起こるかわかりません



平成15年8月、台風10号による大量出水状況（びわ町難壁・びわ町落合）

■毎年のように川が干上がっています



平成15年10月、断絶の状況（湖北町馬渡・びわ町落合）

今、なぜ丹生ダムが 必要なのか

～第2回高時川の明日を考える住民大会～

【日時】平成16年2月28日(土)
午前10:00～午前12:00

【会場】伊香郡民会館
伊香郡木之本町木之本1525

主催：高時川の明日を考える住民大会実行委員会

後援：高時川治水対策促進協議会、湖北土地改良区、丹生ダム対策委員会

今、 なぜ丹生ダムが 必要なのか

～次 第～

1. 開会の挨拶
2. 経過報告
3. 来賓挨拶
4. 来賓紹介
5. 特別講演
6. 「住民の声」
7. 決議
8. 閉会の挨拶

主 旨

高時川は、過去幾度となく堤防の決壊により大きな被害を出しています。その度に流域住民は貴重な人命や財産を失い、その復興に努めてきました。丹生ダムはこうした大量の出水時に災害を軽減することができるダムです。また、高時川の中下流では、川が干上がる「瀬切れ」が毎年のように発生し、生態系に影響を与えています。地域住民が安全で安心できる暮らしを実現するとともに、高時川や琵琶湖の生態系保全に大きな効果をもたらすためには、丹生ダムは欠かすことのできないものです。丹生ダムの早期実現を図るため、住民の熱い思いを国土交通省に届けましょう。

特別
講演

「地球温暖化の話と最近の雨の降り方について」

講演概要：

近年、日本では短時間に降る大雨が多くなったと言われてい
ます。その一方で、年間の降水量は減少傾向にあるとも言わ
れています。では、実際に雨の降り方は以前と比べて変化し
ているのでしょうか？

地球温暖化についての話や湖北周辺の気象データを紹介しな
がら、最近の雨や雪の降り方について解説して頂きます。

講演者：山本 浩之

気象予報士、技術士（建設部門）

（現職：（財）日本気象協会関西支社調査部 応用気象課長）



必死な水防活動状況（昭和50年8月 台風6号 びわ町 興福地区）

決議(案)

平成15年1月、淀川水系流域委員会より「ダムは原則として建設しない」との提言がなされました。

淀川水系流域委員会の委員や一部の反対論者は現地にも来ず、現地の事情も知らない状況の中で生態系に悪影響を与えるなどと環境に名を借りて「ダムは原則として建設しない」と言っています。

生態系を守るためには「ダムは原則として建設しない」と言われますが、ダム以外の案で河川改修などには、いったい何十年必要なのでしょうか。

現実を全く無視した反対論者の空想的な発想を我々は断じて許すわけには参りません。

今まで流域住民は、「洪水」「渇水」において、歴史の中で川に血が流されるなど他には例をみないほど悲惨な出来事を通じて自然との共生を続けてまいりました。

そのことには全くふれず、「ダムは原則として建設しない」との論理により切り捨てようとしています。我々は不要なダムを造れと言うのではなく、「流域住民が安全で安心できる暮らしを守るためには丹生ダムは絶対必要です」と言っているのです。

丹生ダムは、琵琶湖の周囲や淀川流域の人々を洪水や渇水から守ることを目的に、琵琶湖総合開発事業の一環として位置づけされましたが、下流の人々のために琵琶湖から毎秒40m³の水の供給を開始した後において、ダム建設を中止しようとしているのです。

現地を知らない反対論者にダムは必要ないと言われ、ダム建設を遅らせ貴重な人命や財産が失われた時には、いったい誰が責任をとるのでしょうか。

丹生ダムは大きく気象状況が変わっていく中で、自然との調和、高時川、琵琶湖の環境改善に大きく寄与すると共に、琵琶湖の環境を良好に保ち淀川流域の人々の安全で安心な暮らしを守るためには不可欠です。

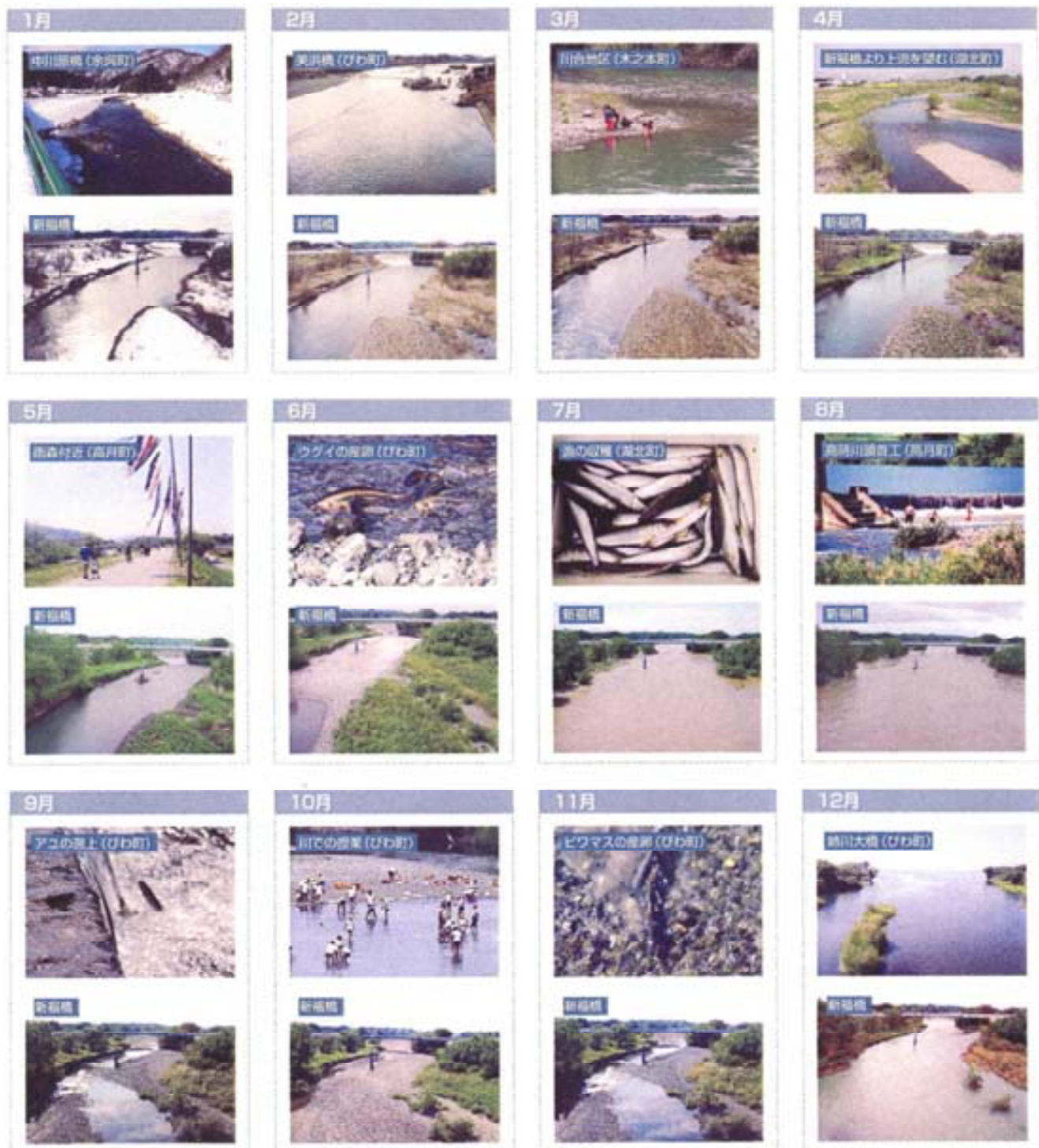
丹生ダムの早期完成に向けて、昨年の住民大会を始めとし、18,000余名の人達の署名など様々な要請活動を行い、源流から河口までの未来を共に考え一日でも早い完成を願いつつ取り組むことを再度確認し、丹生ダムが絶対必要であることを国に積極的に働きかけ、早期実現を本大会の名において強く要請するものであります。

以上決議する。

平成16年2月28日

高時川の明日を考える住民大会

■平成15年1月から12月の高時川・姉川の風景



※ 新堀橋 は、定期的に新堀橋 (湖北町) から下流を撮影したものです。

■高時川の瀬切れ発生状況 (1996年～2000年)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成8年 (1996)					■	■	■	■	■	■	■	■	81日
平成9年 (1997)				■	■	■	■	■	■	■	■	■	105日
平成10年 (1998)					■	■	■	■	■	■	■	■	18日
平成11年 (1999)					■	■	■	■	■	■	■	■	75日
平成12年 (2000)						■	■	■	■	■	■	■	82日

凡例 ■ は瀬切れを確認した時期

第2回 高時川の明日を考える住民大会 平成16年2月28日



1. 多数の来賓の方々



2. 國松滋賀県知事の挨拶



3. 参加者 約1050名



4. 会場外に設置されたモニター



5. 特別講演



6. 住民の声の発表

第2回 高時川の明日を考える住民大会 平成16年2月28日



7. 高月町長による大会決議



8. 余呉町長による閉会挨拶